

中晩生カンキツ「はるみ」の露地栽培における年内収穫果の品質

園芸研究所

1 背景、目的

「はるみ」は、「清見」と「ポンカン」の交配で育成された高品質な中晩生カンキツです。糖度が高く、「不知火」よりも成熟が早く、1月～2月に出荷できる品種として県内での普及が期待されています。中晩生カンキツは収穫時期が遅いため寒害を受けることがあり、栽培地域が限定されています。栽培面積の拡大を図るためには、露地栽培した場合の成熟期や収穫期、年内収穫の可否、貯蔵性等の性質を明らかにする必要があります。

そこで、露地栽培した「はるみ」の果実の成熟に伴う着色、糖度、クエン酸含量など品質の経時的変化と年内収穫の可否、また栽培上課題となっている果実の浮皮の発生防止技術を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 果実の着色は10月下旬に始まり、12月下旬に概ね完了します。浮皮は11月から発生して、1月に顕著になります。糖度は12月下旬には12度まで増加します。クエン酸含量は12月には1.0%程度まで減少します。
- 2) 12月下旬に収穫して1ヵ月常温貯蔵した果実は、樹上で越冬させ1月下旬に収穫した果実と比較して品質の差が認められません。また、貯蔵中の果実の果皮障害、腐敗は少ないため、冬季の寒害の恐れがある場合は、早期収穫が可能です。
- 3) 浮皮の発生は、9月にカルシウム剤を散布することで軽減されます。

3 主要なデータなど



図1 「はるみ」の結実状態

注) 甘夏中間台 22年生樹 (平成8年高接ぎ)

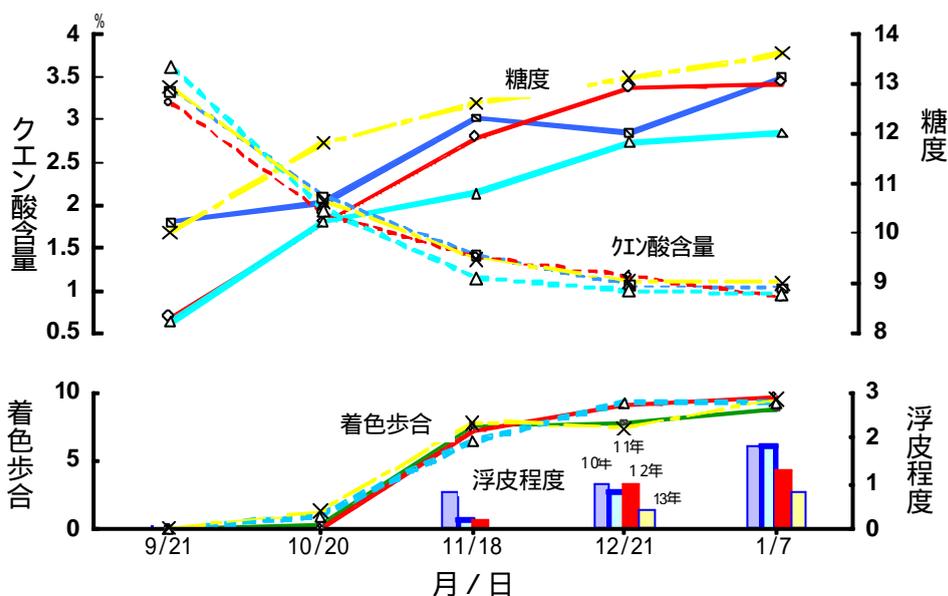


図2 「はるみ」の着色、浮皮、糖度、クエン酸含量の経時的変化

注) 露地栽培、平成10年、11年、12年、13年

着色歩合は、果実の着色した部位の割合を無(0)~完全着色(10)で表示

浮皮程度は、無(0)、軽(1)、中(2)、甚(3)で表示

表1 「はるみ」の収穫時期と果実品質 (平成11年)

収穫日	着色程度	果皮色	浮皮程度	果重	果肉歩合	糖度	クエン酸含量	甘味比
				g	%		%	
1月21日	9.7	8.0	1.8	218	70.0	13.5	0.94	15.9
12月21日	9.5	7.9	1.4	197	72.4	13.1	0.92	15.8

注) 調査月日は12年1月21日で、12月21日に収穫した果実は1ヵ月間常温貯蔵した